

第六十二回 帝國議會
衆議院

手形法案委員會議錄(速記)第三回

付託議案

手形法案(政府提出、貴族院送付)

身元保證ニ關スル法律案(一松定吉君外四名提出)

利息制限法中改正法律案(一松定吉君外四名提出)

刑事訴訟法中改正法律案(一松定吉君外四名提出)

行政執行法中改正法律案(一松定吉君外四名提出)

嫡出子又ハ庶子ニ非サル子ノ名稱ニ關スル法律

計量士法案(一松定吉君外四名提出)

度量衡法中改正法律案(一松定吉君外四名提出)

計理士法中改正ニ關スル建議案(中井一夫君提出)

稅務代理人法制定ニ關スル建議案(中井一夫君提出)

利息制限法中改正法律案(森田福市君外五名提出)

民法中改正法律案(土井權大君外五名提出)

商法施行法中改正法律案(土井權大君外五名提出)

商法施行法中改正法律案(土井權大君外五名提出)

出

出

出

出

出

出

出

出

出

出

出

出

出

出

出

出

出

出

出

出

出

出

出

出

出

出

ノ行使ガ出來ルヤウニナリマシタ、其結果ト致シマシテ、満期前ニ償還請求權ヲ行使スル場合ニハ、自然満期迄ノ日歩ヲ割引イテ償還金額ヲ計算スルコトニナリマシタ、ソレカラ引受拒絕ガアリマスト、直グ償還請求ニナリマスク結果、今迄ノヤウニ即時引受ケルカドウカラ決メナケレバナラヌコトニ致シマスト、例ヘバ引受人ガ振出人ノ所へ照會ヲ發シテ、調べテカラ引受ケタイトカ、帳簿ノ上デ、引受ケテモ差支ヘナイカドウカラ調べテカラ、引受ケタイト云フヤウナコトノ爲ニ、相當ノ時間ヲ必要トスルコトガアリマスノデ、其便宜ノ爲ニ所謂引受ノ考量期間ト云フモノヲ認メルコトニナリマシタ、ソレハ引受ノ呈示ノアリマシタ翌日、更ニ第二ノ呈示ヲシテ吳レト云フ請求ヲ致シマシテ、翌日ニナッテ引受ヲスルカ、引受ヲ拒絶スルカラ決メルコトガ出来ルノデアリマス、ソレカラ質入裏書ト云フモノヲ認メルコトニナリマシタ、現行法デハ質入裏書ノ規定ハゴザイマセヌ、四十四年ノ商法改正前ニハ、質入裏書ノ規定ガアリマシタノヲ、削除シテ、學者間デモ實際家間デモ、是ハ改惡デアルト申サレテ居リマシタ、實際質入スル時ハ、信託裏書ト申シマスカ、裏書讓渡デ其效力ヲ擧ゲテ居リマシタノヲ、今度ハ手形法ノ效力ヲ有スル質入

裏書ガ出来ルヤウニナリマシタ、ソレカラ全部ノ手形ニ付テデハアリマセヌケレドモ、一覽拂ト一覽後定期拂ノ手形ニ付キマシテハ、利付手形ヲ認メル附後定期拂ノ手形ニ付テハ、英米法デハ認メテ居リマスケレドモ、一足飛ニスグ其處マデ參リマセヌノハ、確定日拂ト日附後定期拂ノ手形ニ付キマシテハ満期ガ決ツテ居リマスカラ、ソレマデノ利息ヲ計算シテ——現金ノ中ニ計算シテ包含スルコトガ出来ルト云フ趣旨デアリマス、併シ一覽拂ト一覽後定期拂ノ手形ニ付テダケデモ利付手形ヲ認メルコトニナリマシタノハ、實業界ノ事情ニモ合シテ居ル優レタ點デアラウト思ツテ居リマス、ソレカラ是ハ日本デ特ニ主張シテ、條約ノ中ニ規定ガ入ルコトニナリマシタガ、ソレハ不可效力ガ滿期日間際ニ發生致シマシタ場合ニ、從來ハ假令不可效力ガアリマシテモ、遡求權保全行爲、例ヘバ手形ヲ呈示スルトカ、拒絶證書ヲ必要トスル場合ニハ作成スル手續ヲ盡シテ置キマセヌト、償還請求權ヲ全部失フコトニナッテ居リマシタガ、ソレハ甚ダ困リマスノデ、不可效力ガ生ジタ場合ニハ、遡求權保全行使ノ期間ヲ伸長スルコトヲ認メルコトニナリマシタ、尙ホソレガ三日以上繼續致シマスト全ク、保全行

爲ヲ爲サズシテ遡求ガ出來ルヤウニモ
相成ツテ居リマス、ソレカラ振出ノ記載
要件ノ中ニ、振出地ヲ書クコトヲ必要
トシマシタガ、是ハドノ土地デ振出サ
レタカト云フコトガ、國際手形ナドニ
付キマシテ、住居ヲ定メル上ニモ必要
デアリマスシ、又國外ニ参リマス手形
ニ付テ、手形金額ノ換算ノ場合ナドニ
モ必要ガ出テ参リマスノデ、矢張振出
地ヲ書ク方ガ宜イ筈デアリマス、ソレ
カラ御承知ノ通リ手形ノ要件ハ、必シ
モ眞實ニ符合シタ振出地ガ書イテアリ
マセヌデモ、形式上振出地ガアレバ宜
イノデアリマスカラ、手形用紙ニ豫メ
振出地ヲ書イテ置キマシテモ差支アリ
マセヌシ、又強イテ振出地ト認メルコトニ
テアリマセヌデモ、振出人ノ肩書ニ書
イテアル地ヲ振出地ト認メルコトニ
ナツテ居リマス、現在行ハレテ居ル手形
ニハ、振出地ヲ書クヤウナ形式ヲ取フテ
居リマスノモアリマスシ、サウデナク
テモ、此要件ニ外レマシタ爲ニ、特ニ振
出人ガ面喰ツテ無效ノ手形ガ出テ來ル
ト云フヤウナ虞モナイ、尙ホ其他小サ
イ點ニハ色々達ヒモゴザイマスガ、一
ト通り理論的ニ能ク合ツタヤウナ點ガ
多イノデアリマスガ、餘リ細カイコト
ハ又御尋ネニ依リマシテ申上グマス
○倉元委員 大體御説明ニ依リマシテ
諒承致シマシタガ、之ヲ端的ニ申上ゲ

シ、手形ノ信用ノ擴張ニモナリ、又手形ノ信用ノ確保ニモナルト云フヤウナ見地カラ、此御改正ガアル譯デアリマスガ、ソレハ條約ノ關係カラ來テ居ルト、サウ見テ宜シウゴザイマスカ
○齋藤司法書記官 只今ノ御説ノ通りト御承知ヲ願ヒマス
○倉元委員 モウ一ツ私ハ大體ノコトニ付テ伺ヒタイト思ヒマスガ、此法案ハ見方ニ依ツテハ經濟上ニモ隨分重大ナ影響ノアル問題デアルト思ヒマスガ、此法案ヲ此短期ノ議會ニ御出シナルト云フコトハ、何カ深イ理由ガアルノデアリマスカ、ソレヲ一ツ伺ヒタイト思ヒマス
○松田政府委員 只今倉元君カラ御尋ネノ點ニアリマスガ、此法案ニ包含サレテ居リマス諸種ノ規定ハ、是ハ從來世ノ中ニ公表ヲサレテ居リマシテ、學者ノミナラズ各國間ニモ殆ド相當ノ研究ガ届イテ居ルモノデアリマシテ、殊ニ其内容ハ此手形法ノ統一企テマシテ纏リマシタ最初ノ法案ト致シマステ、前會ノ委員會デ司法大臣カラモ申上ゲマシタ通リニ、千九百十二年ノ「ヘーダ」ノ手形法會議、此會議ニ日本カラモ委員ガ出マンテ、サウシテ其規定ガ殆ド大部分今回ノ條約案ト申シマスカ、只今御覽ニナッテ居ル手形法案ノ申

イマスカラ、今突如トシテ斯ノ如キ百箇條ニモ互リマス法案ガ、早急ニ提出サレタト云フコトニナリマスト、洵ニ倉元君ノ御心配ノヤウナ點ハ重々諒承スルノデアリマスガ、只今申上ゲマシタヤウナ沿革ヲ經テ居リマスト同時ニ、今出テ居リマス此手形法案モ、其手形法案ニ基イテ居リマス、手形統一條約ト云フモノモ、既ニ二年間モ世ノ中ニ發表サレテ居ルノデアリマシテ、又最近ニ於キマシテモ、此議會ニ提出ニナリマシタ時機ヲ利用シタモノトモ見エマスガ、色々ノ之ニ對スル解釋ノ書物ガ出テ居ルヤウデアリマス、又今回ノ手形法會議ニ於テモ、先程カラ申上ゲマシタ通リニ、日本ノ主張シマシタル點ガ、相當ニ採用サレテ居ル、其採用サレタル提案ノ本ハ何處カト申シマスト、是ハ唯政府ノ一存デ出シタノデハゴザイマセヌノデ、ヤハリ手形交換所デアリマスルトカ、或ハ商業會議所デアリマスルトカ、其方ニ最モ利害關係ノ深イ、又其方ニ最モ接觸シテ居ル方面ノ考案若クハ意見、若クハ希望ト云云フト、只今ノ極ク早急ノ間ニ之ヲ議スルト云フヤウナ御心配ハ、一般的ニス、サウ云フ沿革上カラ言ヒマスルトハ、餘程輕減サレルモノデハナイカト云

フ考デ居ルノデアリマス、實ハ千九百
十二年、即チ明治四十五年以來、店晒シ
ト申シテハ何デアリマスガ、餘程是ハ
日本バカリデモナク、世界的ニ研究ノ
材料ニ供サレタモノデアリマス、而シ
テサウ云フコトガ、今回ノ會議ガ成功
ニ導カレタ所以ノモノデアラウ、斯ウ
云フ風ニ考ヘテ居リマス、サウ云フ風
ニドウゾ御諒解ヲ願ヒタイ

ノ規定ニ依ツテ「聯盟國又ハ非聯盟國ノ七國ニシテ國際聯盟理事會ニ常任代表者ヲ有スル聯盟國ノ三國ヲ含ムモノ、爲ニ批准セラレ又ハ加入セラル、ニ至ル迄ハ效力ヲ生セサルヘシ、效力發生ノ日ハ國際聯盟事務總長ガ本條第一項ニ從ヒ第七ノ批准又ハ加入ヲ受領シタル後九十日目タルヘシ」此規定ニ依ルト云フト此會議ニ列席シタ國デスナ、國際聯盟理事會ニ常任代表者ヲ有シテ居ル聯盟國ノ三國ト云フ、此三國ハ三箇國デハナイ、常任代表者ヲ有スル聯盟國ト云フノハ何處ト何處ノ國デアルカ、ソレヲ御説明ヲ願ヒマシテ、次ニ本年ノ九月一日前ニ批准書ヲ寄託ヲシナケレバナラヌ、ソコデ今日迄此條約ノ締結ノ爲ニ、即チ批准書ヲ寄託スルト云フ國ハアルカ、マダ寄託シタ國ハナイカ、而シテ九月一日迄ニ何處ノ國ガ批准スルダラウト云フ豫想ガ、外務當局デ御付ケニナルコトガ出來ルカドウカ是ガ第二、第三ニハ我國トシテハ他國ノ批准ヲ見テ居テ——三箇國ガ批准ヲ致サナケレバ本條約ハ成立シナイノデアリマスカラ、成立シナイ條約ニ向ツテ我國ガ率先シテ速ク批准ヲスルト云フコトモ、是ハ餘リ出過ギタ話デ、非常ニ深イ關係ノアル條約デモナイ、ソコデ、他國ガ批准ヲ致シテ、我國ハ九月一日迄ニ批准寄託書ヲ寄託致サナカッタ

トシタ場合ニ、我國ガ若シ此條約ニ加
入シヨウトスレバ、ソレカラ後ガドウ
云フ形式ニ依ツテ加入ガ出來ルカト云
フ點ヲ先ヅ承ツテ置キタイト思ヒマス
○松田政府委員 只今原君カラ御尋ネ
ノ第一點デアリマスガ、條約ノ第六條
ニアリマスル「本條約ハ聯盟國又ハ非
聯盟國ノ七國ニシテ國際聯盟理事會ニ
當任代表者ヲ有スル聯盟國ノ三國ヲ含
ムモノ、爲ニ批准セラレ」トアリマス
ガ、此三國ハ現在國際聯盟理事會ニ常
任代表ヲ出シテ居ル國ハ五箇國アル、
五箇國ト申シマスルノハ英吉利、佛蘭
西、獨逸、伊太利、ソレニ日本ガ入ツテ居
リマシテ五箇國ニナル、其内ノ三箇國
ト云フコトニナル譯デアリマスカラ、
諸テ之ヲ實際的ニ考ヘテ見マスト云フ
ト、御承知ノヤウニ英吉利ハ手形統一
法ノ條約ニ調印シテ居リマセヌ故ニ、
三國ト申シマシテモ、四箇國ノ中ノ三
國ト云フコトニナル譯デアリマス、デ
アリマスカラ假リニ日本ガ所定ノ期日
迄ニ批准ヲ致シマセヌト、詰リ殘リノ
三國——英吉利ヲ除イタ三箇國全部ガ
批准シナケレバナラヌト云フコトニナ
ルノデゴザイマス、隨ツテ日本ト致シマ
シテハ、此統一法ニ含マレテ居ル規定
ガ採用シ得ベキモノデアルナラバ、後カ
ラ加入スルト云フコトデナシニ、此際
成ルベク批准ヲ促進シタイト云フ考ヲ

持ツテ居ルノデゴザイマス、第二ハ今日
マデ何處ノ國ガ批准シタカト云フ御尋
デゴザイマスガ、各國トモ研究ニ時ヲ
費シテ居リマスト同時ニ、時期ガ今暫
ザイマス、是ハ前回ニ長島政府委員カ
ラ申上ゲタト思ヒマスガ、現實今日マ
デ批准ヲシタト云フ通知ヲ得マシタ
ノハ希臘一國デゴザイマス、其他ノ國
ノ状況ハドウデアリマスカト云フノ
デ、各關係國ニ様子ヲ尋ネテ居リマス
ガ、ソレドヽ準備ヲ致シテ居ル、デアリ
マスカラ先ヅ只今ノ考デハ聯盟ニ常任
代表者ヲ出シテ居ル國ノ三箇國ト云フ
モノハ、集リ得ルデハナカラウカト云フ
ヤウナ豫想ヲ持ツテ居ルノデス、尤モ此
聯盟理事會ニ代表者ヲ出シテ居リマス
爲ニ、或ハ議會ガ開會サレナイ時期ノ國
モアリマスシ、或ハ又解散ト云フヤウ
テ、而シテ其議會ノ通過ヲ要シマスガ
諸國モ、ソレヽ議會ニ提案致シマシ
テ、而シテ其議會ノ通過ヲ要シマスガ
爲ニ、或ハ議會ガ開會サレナイ時期ノ國
モアリマスシ、或ハ又解散ト云フヤウ
ナ處モアリマシタリ致シマシテ、都合
ゴザイマス、デアリマスカラ成ベク早
ク日本モ有ユル機會ヲ捉ヘマシテ、批
准ヲシ得ルヤウナ状態ニ置キタイト云
フ考デ居ルノデアリマス、第三ハ若シ
日本ガ批准ノ時期マデニ手續ガ盡サレ
ナイ場合ニ、後カラ加入ガ出來ルカ、是

ハ無論規定ノ上カラ、後カラ加入ガ出来ルノデアリマスガ、日本モ此條約ヲ批准スルト云フコトハ、日本ガ一箇國バカリ批准シマシテモ、條約ニ規定シテ居リマス所ノ條約效力發生ノ條件ガ充タサレナイト、日本一箇國ノ批准ト云フコトハ效力ノ無イコトデゴザイマスノハ、洵ニ御説ノ通りデゴザイマス、ソレガ爲ニ政府ニ於キマシテモ、斷ヘズ各關係國ノ狀況ヲ調べ、又之ヲ統一致シテ居リマス國際聯盟ノ事務總長トモ聯絡ヲ取リマシテ、各國ノ批准狀況ヲ常ニ知ルコトニ努メテ居ルノデゴザイマス、併シ是ハ原君モ仰ツシヤッタヤウニ果シテ條約ノ所定通り、今年ノ九月一日マデニ所定ノ七箇國ノ批准ガ果シテ寄託セラル、ヤ否ヤト云フコトハ、是ハ全ク未定ノ問題デゴザイマシテ、其際ニハ矢張條約ヲ締結シ、又此成否ヲ色々心配致シテ居ル方面ニ於キマステモ、サウ云フ考慮ハ大ニ持ツテ居ルノデアリマシテ、其爲ニ若シ今年ノ十一月一日迄ニ所定ノ要件ガ満タサレナイ場合ニハ、又之ヲ何トカシテ實現スル、即チ各國間ニ效力ヲ發生セシメルト云フ方法ヲ相談スルト云フヤウナコトヲ豫見シテ居ルノデアリマス、政府ト致シコトハ致サナイ考ヲ有ツテ居リマス

省デ調べテ戴イタモノデハ、佛蘭西ハ
批准ニ關スル法律案ト關係國內法ノ改
正法案ヲ、六月後ニ開カレル議會デ審
議ヲシタ上デ、條約ノ批准ヲスル見込
ダト云フノデアリマスガ、マダソレガ
決シタ云フ通知ハアリマセヌカラ、見
込ダケデアリマス、獨逸ハ能クハ分リ
マセヌガ、獨逸聯邦參議院ニ掛ケテ、其
決議ヲ經タ上デ、此改正法案ヲ議會ニ
提出スル順序ニナツテ居ルヤウデアリ
マスガ、其參議院ノ贊意ダケハ受ケタ
ラシイ、所ガ承リマスレバ、議會ハ解散
ニナリマシタカラ、是ハマダ出ナイカ
ト思フノデアリマス、此當時ニハ兎ニ
角議會サヘ解散ニナラナケレバ出スト
云フコトデアリマシテ、現ニ其法律案
ハ出來テ居ルノデアリマス、ソレカラ
伊太利ハ、改正草案ヲ本年二月中ニ完
成シテ、此批准ハ五月中ニ完了ノ豫定
デアリマスガ、幾ラカ早目ニ報告ガ來
テ居リマスノデ、五月中ニ完了シタカ
モ知レマセヌ、瑞西ハ、債務法ノ改正法
案ノ中ニ此條約ノ手形法規ノ改正ノコ
トモ這入ツテ居ルノデアリマスガ、ソレ
デハ間ニ合ハナイト云フノデ、是ダケ
ヲ引離シテ、六月ノ議會ニ提出スル見
込デ、條約ノ批准モ矢張同時ニヤルト
云フ見込ニナツテ居リマス、主ナルモノ
ハ大體サウ云フコトデアリマス

○原委員 御説明ニ依ツテ能クリマシタガ、サウスルト、結局佛蘭西、伊太利、獨逸モ議會ガ解散ニナツテ居ルケレドモ、九月一日迄ニハ議會ニ提案ヲシテ、結局此三箇國デ批准ガ出來、此條約ハ調印國七箇國ニ依ツテ大體成立スルモノト思ハレルノデアリマスガ、所デ我國ニ於テハ、結局昨日來論議ノ焦點ト相成ツテ居ル多クノ條文ヲ、此短期間ニ審査シテ、之ヲ議了スルト云フコトハ、餘リニ特別委員ノ重責任デハナイカ、半面カラ言ヘバ、無責任ナ審議ヲ致シテ、之ヲ本會議ニ送ルト云フヤウナコトニナリハシナイカト云フコトヲ、ノ大體ヲ警見スルト云フト、進歩致シタル、又我國ノ現行手形法ヨリ以上ニノデアリマス、ソレデ結局此法律條文ノ大體ヲ警見スルト云フ、結局此處デ之ニ進ンデ居ル良キ法案ノヤウニ、大體ハ見テ居ルノデスカラ、承認ヲ與ヘルカ、或ハ慎重ニ審議スルカ、サウスルト九月一日迄ノ批准書寄託ニ問ニ合ハヌヂヤナイカ、結局此處ヘ歸著スル問題ダト思フノデアリマス、ソコデ念ノ爲ニ伺ツテ置キタイ點ハ、若モ是ガ條約ト法律トノ關係ニ於テ、斯ウ云フ國家ノ責任ニナルト同時ニ、謂ハ、國民ノ權利義務ヲ羈束スル國內法ノ制定ヲ要スル條約ニ付テハ、先ヅ國內法ノ制定ヲ先ニスルト云フ、我國ノ

是迄ノ慣例、今後慣例ニ致サントスル
政府ノ御方針デアリト致シマシタナラ
バ、法律ハ國內法デ成立スル、議會ノ協
賛ヲ經ル、而シテ何カノ支障デ若シ條
約ガ成立シナイ、例ヘバ獨逸國ガ、國內
ガ色々ゴテシテ、到頭議會ニ法律
案トシテ掛ケルコトガ出來ナイ、ソコ
デ聯盟理事會ニ常任理事ヲ持ツテ居ル
獨逸ガ、遂ニ批准ガ心ナラズモ出來ナ
カツタト云フ場合ニ於テ、此條約ガ成立
シナイト云フコトニナルト云フト、我
國ニ於テノ憲法上ノ條約ト法律トノ關
係ニ於テ慣例ヲ作ラントセラルル國內
法制定カラ先ニ行ハレルト云フコトニ
ナレバ、國內法グケハ條約ト云フコト
ノ爲ニ取急イデ無理ヲシテ法律ガ制定
ニナル、而シテ根本ノ條約ガ到頭成立
シナイ、サウスルト其條約ヲ原因トシ
テ制定シタル法律ダケハ殘ツテシマツテ
本尊サンガ無クナツテシマウ、斯ウ云フ
ヤウナ結果ニナルト云フト、是ハ實ハ
國民ハ忍ビナイ所デ、又議會ノ立場ト
致シテモ、吾々議員トシテモ、特別委員
トシテモ、洵ニ其職責ニ鑑ミテ甚ダ變
ナコトニナラザルヲ得ナイ、之ヲ半面
ウツスルト云フト、國內法ヲ要スル條
約デハ、大權事項ガ自ラ制限ヲ受ケル
ト云フヤウナ關係ニ相成ルヤウニモ思

ハレル、何時モ先づ國內法ヲ制定致サナイト云フト、樞密院ニ諮詢ヲ奏請致云フト、憲法デハ大權事項條約ハ總天皇ノ大權ニ屬シテ居ル、帝國議會ハ之ニハ干與シナイト云フコトノ建前デアツテ、其裏面カラ見ルト云フト、條約ハモウ條約デ獨自ノ立場ニ於テ樞密院ニ御諮詢ニ相成ツテ、條約ハ陛下ガ批准遊バス、斯ウナツテ居ルモノヲ、國內法制定ヲセナケレバ、條約ハ成立シナイト云フコトニナレバ、自ラソコニ大權ガ多少デモ制限ヲ受ケル、斯ウ云フコトニ相成ル譯デアリマス、サウデナシニ條約ハ條約ノ立場カラ、條約ハ直チニ批准ヲセラル、條約ガ公布ニナツテカラ後ニ、其條約ニ依ツテ國家モ國民モ羈束力ヲ生ズルノデアリマスカラ、議會ニ向ツテ後ニ國內法ヲ制定スル御鄭重ナル遣方ヲセラレテモ少シモ差支ナイト思フノデアリマスガ、政府ニ於テハ、ドウシテ此條約事項ニ代ツテ居ル國內法ヲ要スル條約ニ向ツテハ、先づ法律ヲ先ニ制定シナケレバナラヌト御決メニ相成ツテ居ルカ、其理由ヲ一ツ伺ツテ置キタイノデス、尙此御見解ハ、何時頃カラサウ云フ風ニ決ツタ問題デアルカ、ソレモ一ツ承ツテ置キタイノデアリマス

マレテ居ル所ノ手形統一法ガ手形法トシテ現行ノ手形法ニ代ルト云フ點バ、餘程ノ疑問ダト思フ、是ハ從來日本政府ニ於キマシテ執ツテ居リマシタ跡ヲ考ヘマスルト云フト、其間ニ非常ナ違ヒガアリ、必ズシモ一致シテ居ナイノデアリマス例ヘバ「ベルサイユ」ノ平和條約、此平和條約ノ中ニハ澤山ナル立法事項ガ含マレテ居リマシテ、而シテ其立法事項ガ悉ク内國法ニ更ニ引直サレテ、サウシテ日本ニ實施サレテ居ルカト言ヒマスト、必ズシモサウ云フ風ニハナツテ居ナイ、サウ云フコトハ必ズシモナイ點モアルダラウト思フ、ソレカラ又統一々々ト申シマスケレドモ、現今世界ノ一般ノ大勢トシマシテ、各國ノ國內法ガ統一サレルト云フ傾向ハ確ニアルノデアリマスルシ、又其爲ニ比較法學ノ研究モ非常ニ進歩シテ居ルノデアリマスルガ、其統一ノ方法ガ色々アルノデアリマシテ、或ル場合ニハ條約デ統一ヲシテ置イテ、サウシテ其條約デハ國內法ニ或ル範圍ノ權限ヲ委シテ置ク、何ト申シマスルカ、一定ノ規矩準繩ヲ示シテ置キマシテ、其範圍ダケデ統一スルト云フコトニナルノデアリマス、所ガモウ少シ嚴格的ニ行キマト、是ハ各國ニ又自由ヲ認メテ、サウシテ其上デ統一ト云フコトニナルノデアリマス、所ガモウ少シ嚴格的ニ行キマス場合デスト云フト、今度ハ同ジ法規

フ、ノデ是モ大體話ハ付キマシタ、四項
ニ意見ガアリマシテ、私共ハヤハリ此
規定ヲ設ケナイ方ガ宜イグラウト云フ
考デアツタノデアリマスガ、正金銀行ト
シテモ参考トシテ出スト云フノデ、強
ク主張スルト云フコトニハ行ッテ居ラ
ナイノデアリマス、尙ホ詳シイコトハ
別室デ御懇談的ニ申上ゲテモ宜シイノ
デスガ、相當容レラレテ居ルノデアリ
マス

ナラヌ、ソレハ私共ハ現行法ガ非常ニ
缺陷ガ多クテ不完全デアルカラ、此條
約ニ基イテ改正スレバ非常ニ國民ノ福
利ヲ増進スルコトガ出來ル、斯ウ云フ
見地ニ立ツテ此法案ヲ御出シニナッタ、
斯ウ私共ハ只今マデ判断シテ居リマシ
タ所ガ、先刻來ノ應答ニ依リマスルト、
一ニ是ハ批准ヲ急グ、其爲ニ此法案ガ
出タ、斯ウ云フ風ニ解セザルヲ得ナイ
ヤウニ受取リマスガ、ドチラガ政府ト
シテ——之ヲ御提案ニナリマシタ方針
ノ主タルモノデアリマセウガ、斯ウ云
フコトヲモウ一應伺ツテ置キタイ、之ニ
依ツテ私共審議ヲ進メル上ニ頭ノ置キ
方ガ違ツテ來ル。

○長島政委員 簡單ニ答ヘマスト、
マア兩方ニナル譯デアリマス、無論此
法案ハ私共ハ現行法ヨリハ非常ニ宜イ
モノト思ツテ居リマスガ、併ナガラ批准
ノ關係ガナケレバ、何モ之ヲ此議會ニ
出サヌデモ、通常議會ニシテモ宜イノ
デアリマス、今銀行ノ取付ヲ救濟スル
ト云フヤウナ極端ナ問題デモアリマセ
ヌノデスカラ、ソレハ無論通常議會ニ
出シテ宜イノデアリマスガ、宜イ法案
デアリ、而シテ批准ノ關係モアルカラ、
此議會ニ出ス、斯ウ云フコトニ御諒解
ヲ願ヒタイノデアリマス

○倉元委員 本案ノ實質モ、私共ノ考
ヘテ居ルソレニ副ヒ得ルモノデアルト

ノ御確信ガアリ、旁々批准ヲ急グ關係カ
ラ臨時議會ニ出シタト云フコトデアリ
マス、併シ是ハ私ノ私見デゴザイマス
ルガ、一體日本ハ外國ノオ附合ヒノオ
先棒ニナリ過ギル、亞米利加ノ態度ノ
如キハ御承知ノ通リデアッテ、不戰條約
デアッテモ「ヴェルサイユ」條約デアッテ
モ、自分が主唱者ニナッテ居ツテ、其條約
ニ入ラヌト云フヤウナ、亂暴ナコトヲ
ヤル大キナ立派ナ一等國ガアル、斯ウ
云フコトニ日本ガオ先棒ニナッテ、先ニ
斯ウヤラナケレバ相濟マヌト言フヤウ
ナ、國際信義ヲ何處マデモ尊重セラビ
テ居ルコトモ結構デアリマスケレド
モ、マア／＼サウ狼狽ヘナクトモ、私
共ハ現行ノ手形法デ十分間ニ合ツテ行
クト、斯ウ云フ風ナ感ジヲ持テ居リマ
ス、一言ダケ申上ゲテ置キマス
○藏園委員長 ソレデハ是デ休憩致シ
マシテ午後一時カラ開會シマス
午後零時十分休憩

○張間外務書記官 留保シヨウト思ツテ居リマスル所ノ條項ハ、大體第五條ノ二項、ソレカラ第七條、第六條ハ當然デスカラ要ラヌノデアリマス、第九條、第十條、第十三條、第十五條、第十七條、第十八條、第二十條、第二十二條、大體ダケデアリマス

○清瀬委員 今ノ中ニ二條ヲ仰シヤラナカツタノハ、是ハドウデアリマセウカ、今ノ記名ノ點デス

○張間外務書記官 第二條ハ留保致シマセヌ

○清瀬委員 致シマセヌ、ドウ云フ譯デアリマスカ

○長島政府委員 是ハ釋明ノ結果、署名ノ中ニ記名捺印ガ要ルト云フノガ當然ダト云フコトハ、議事錄ニモ報告ニモアルノデ、之ニ代ルト云フノガ、例ヘバ盲人ノ點字ヤ何カデアリマス、アレナンデス、若シ是デアルトスルト、此但書ノ條約ノ宣言ニ署名スペカラザルモノニ署名スルコトガ必要ニナリマスガ、サウ云フ意味デナクシテ、記名捺印ヲ含ムノガ解釋上當然ダト議事ノ結果ナリマス、是ハ留保スル必要ハナイト云フコトデアリマス

○清瀬委員 ソレハ不思議ナコトデアリマス、記名捺印ヲ署名ト見ルコトハ、ナンボ議事ノ結果デモソレハアル筈ハ

ナイン、「スタンブ」ハドウデアルカ、日本
デハ「スタンブインキ」デ判ヲ捺シテマス
○長島政府委員 サウ云フノモ這入ル
ト云フノデ、現在ハ能ク存ジマセヌガ、
外國ナドモ判デ署名ヲ捺シテヤッテ
居ルノガアルヤウデアリマス、サウ云
フノモ這入ル、確カ印度デスカ、判ヲ用
キテ居ルノガ澤山アルノデ、ソレガ問
題ニナリマシテ、茲ニ所謂署名ト云フ
ノハ、今ノ記名捺印ハ無論這入ルト云
フコトニナリマス、ソレガ當然ダト云
フコトヲ其當時ノ總テノ代表ノ間ニ議
決シタノデアリマス、結局有權解釋ニ
ナリハシナカト思ヒマス

○清瀬委員 其議決モ一ツ伺ヒタイ、
ドウモ諒解シ難イコトデ、向フデ署名
ト云フノハ「ハンド・スクリプト」ト云
フコトデスカラ、「スタンブ」ヲ捺シテ
署名ト云フコトハ、國際聯盟デモドウ
モ……

○齋藤司法書記官 一寸只今ノコトヲ
補足致シタイト存ジマスガ、會議ガ濟
ミマシタ後デ、議事錄ノ印刷シタモノ
モ出來マシタシ、其一番初メニ起草委
員ノ條約全體ニ關スル簡單ナ説明書ガ
代表ガ、日本ニ於テハ自分ノ手デ自分
ノ名前ヲ書ク代リニ、自分ノ判ヲ名前
ノ下ニ捺シテ、署名ニ代ヘルト云フ習

慣ガ廣ク行バレテ居ルノデ、斯ウ云
點ニ付テ、日本ニ於テハ留保致シタイ
ト云フコトヲ言ツタケレドモ、會議デ研
究ノ結果、此處デ署名ト用ヒテ居ルノ
ハ、其人ノ同一姓ヲ現ハス何等カノ記
號ヲ廣ク一般ニ云フノデアルカラ、目
本デ今述ベラレタヤウナコトハ、明ニ
此署名ト云フ字ノ中ニハ、當然包含セ
ラレルト解スベキデ、是ハ公ノ署名ノ
中ニ入ツテ、各條約國ハ皆條約ノ上デ
ハ、サウ云フコトニ會議デ決マリマシ
タ、若シ斯ウ決マラナケレバ、日本ト
致シマシテハ、無論記名捺印ト云フコ
トハ、留保シナケレバナラナイ點デアッ
タノデアリマヌ

○長島政府委員 詰リサウ云フコトニ
ナアマス、唯ソコハ甚ダ不明瞭デアリ
マスガ、八十二條ヲ御覽ニナルト「本法
ニ於テ署名トアルハ記名捺印ヲ含ム」
ト書イテアリマシテ、一方商法ニハ記
名捺印トアリマシテ、法理的ニ仰セニ
ナルト、其通リデアリマスガ、書方ト致
シマシテハ、サウハッキリ概念的ノ區別
ガアルモノデハアリマセヌ、併シサウ
仰シヤレバ其通リデス

○清瀬委員 ソレガ甚ダ不便ダト思ヒ
マス、日本ノ法律デ、署名ト云フ文字ヲ
二通リノ意味ニ使ハナケレバナラヌ、
會社法デ言ヘバ、手デ書イタノガ署名
デアリ、此手形法デ言フ時ニハ、判デ捺
シタノガ署名デアル、ソレデハ私ハ不
便ダト思ヒマスガ、尙ホ一ツ御答ガアッ
タカラ、御尋ネシマスガ、今日ノ法律ノ
案文ハ、先ヅ英吉利文ナリ、佛蘭西文ナ
リノ譯デアリマス、サウスルト例ヘバ
此手形法ノ第一條ノ署名ト云フノハド
ウナリマスカ、原文ノ署名ト云フノハ
ベシト斯ウ書クベキモノデハナイデス
記名捺印ガ要ル、其譯文トシテ此處デ
署名ト書クナラバ、ソレハ記名捺印ス
モノデアルガ、此原文ニアル署名ハ今

迄ノ署名ト違ツテ、署名及捺印ト云フ意味ヲ含蓄シテ居ルノダカラ、是モ含蓄シタ文字デ翻譯シナケレバ、キッチリトシタ翻譯ニナリマセヌト思ヒマス
○長島政府委員 「シグネーチュアーノ」ト云フ字ガ果シテドウ云フ意味ガアルカ分リマセヌガ、恐ラク「シグネーチュアーノ」ト云フ字ダケヲ引離シテ考ヘマシテ、署名ト云フ意味ダト思ヒマスガ、ソレハ有權的解釋デ、記名捺印ト云フコトニナリマスカラ、ソレデ八十二條ノ方デ、茲ニ謂フ「シグネーチュアーノ」ト云フ、所謂記名捺印ヲモ含ムト、斯ウ云フコトニ致シタ譯デアリマス
○内藤委員 法律十七號デスガ、是ハ廢止ニナル御考カ、ドウデスカ
○長島政府委員 ソレハ他ノ點デ必要デアリマスカラ残ル譯デアリマス
○清瀬委員 私ノ言フ趣意ガマダ徹底セヌト思ヒマスガ、小サナ點デアリマスカラ是ハ是位デ止メテ、尙ホ他ノ點ニ付テ御尋致シマス、唯私ハ此法律ノ施行ノ結果、是ダケデハナクシテ、日本ノ今迄ノ言葉ガ大變違ツテ居ル、後ニ又シノデアリマスガ、サウ云フモノハ、民法デハ生活ノ本據ト言ツテ居ル、此「ドミシール」ガソレニ當ルカドウカ疑ハシケニシテ吳レト仰シヤイマシタカ

ラ、此位ニシテ尙ホ一ツ伺ッテ置キタ
イ、此本期議會デ資本逃避防止法ト云
フノガ出來テ居リマス、是ハマダ發布
ニナツテ居リマセヌケレドモ、資本逃避
防止法ト云フノガアリマヌ、今貴族院
デ今審議中デアリマスルガ、是ハ通過
スルモノダラウト思ヒマス、資本逃避
防止法ガ出來マスルト、外國ノ爲替ノ
價格ノ換算法ガ別ニアル、第三條ニハ
外貨評價委員會ト云フモノヲ作ッテ、外
國ノ金デ託サレタ爲替ヲ評價シテヤル
ト云フノデスガ、此四十一條ニ依ルト
云フト、慣習ニ依ッテ引換ヘル、斯ウナッ
テ居ルノデアリマス、此調和ヲドウ爲
サル御積リデアリマセウカ

○長島政府委員 モウ少シ具體的ニ

言ツテ戴キタイノデス

○清瀬委員 第四十一條ニハ「外國通

貨ノ價格ハ支拂地ノ慣習ニ依リ之ヲ定

ム」トアル、所ガ今協賛シツ、アル法律

デハ、外貨評價委員會ト云フモノヲ作

ハ、外國ノ爲替相場ヲ決メル、慣習ト外

貨評價トハ違フデセウ、是ハドウ爲サ

ル積リデスカ、是ハ四五日シタラ法律

ニナルノデス

○長島政府委員 私ノ御答ガ御問ニ合

フカドウカ存ジマセヌガ、此第二附屬

書ノ第七條ニ、此爲替ニ關係ノアル例

外ハ、非常ノ場合ノ時ノ留保デアリマ

スガ、七條デハ問ニ合ヒマセヌカ、此點

○清瀬委員 ソレデハドウカ資本逃避

ノハ宜イガ、日本ノ國ニ法律ガニツ出

來テ、片方ハ慣習デ引換ヘルト云フコ

トデアル、片方ハ評價委員會ト云フ委

員會デ値段ヲ決メル、留保セヌデモ國際聯

盟位ハ何デモナイ、ケレドモ日本ガ同

ジ議會デ以テ、片方ハ慣習ニ依ッテ外國

ノ爲替ノ賣買ヲスル、片方ハ外貨評價

委員會デ評價シテ賣買スル、同時ニ二

ツ出來タラドツチニ依ル積リデアルカ、

ノ爲替ノ賣買ヲスル、ナタト討論ヲシテ私ハ勝チタイト云フ

第四十一條ノ二項ノ外國通貨ノ價格ハ

支拂地ノ慣習ニ依ッテ之ヲ決メルト云

フコトハ、亞米利加カラ弗デ來タモノ

ヲ、日本ノ横濱ノ爲替デ引換ヘルト云

トヲシヨウト思ツテ居ルノデアリマス

フコトデ、同ジ議會デ以テ今度ハ政府

ノ方デ外貨評價委員會ト云フモノヲ

考ヘテ居リマセヌカラ、ドウカ司法省

カラ、之ヲ詰寄セテドウト云フコトハ

トヲシヨウト思ツテ居ルノデアリマス

フコトハ、亞米利加カラ弗デ來タモノ

ヲ、日本ノ横濱ノ爲替デ引換ヘルト云

トヲシヨウト思ツテ居ルノデアリマス

フコトハ、必シモ四十一條デハ觸レテ

居ナイト思ヒマスガ、唯此外國通貨デ

現實支拂ヲ受クルノ效力ニ對シテ除外

例ヲ設クルト云フノガ七條ニアリマス

○長島政府委員 是デハ原文ノ通リ翻譯サ

フコトハ、必シモ四十一條デハ觸レテ

居ナイト思ヒマスガ、唯此外國通貨デ

現實支拂ヲ受クルノ效力ニ對シテ除外

例ヲ設クルト云フノガ七條ニアリマス

○清瀬委員 是デハ原文ノ通リ翻譯サ

フコトハ、必シモ四十一條デハ觸レテ

居ナイト思ヒマスガ、唯此外國通貨デ

現實支拂ヲ受クルノ效力ニ對シテ除外

例ヲ設クルト云フノガ七條ニアリマス

○長島政府委員 支拂ヲ禁止スルト云

フコトハ、必シモ四十一條デハ觸レテ

居ナイト思ヒマスガ、唯此外國通貨デ

現實支拂ヲ受クルノ效力ニ對シテ除外

例ヲ設クルト

○清瀬委員 ダカラ資本逃避防止ハ出 來ル、是ハ留保シタ所ノ法律デアル、然 ルニ是ハ留保セヌ法律デアル、二ツ法 律ヲ同時ニ同ジ議會ニ出スノハドウカ ○長島政府委員 ソレハ第七條ノ留保 ハ、必ズシモ手形法自身デヤラヌデモ、 他ノ法律デモ出來ルト思フ	○清瀬委員 ダカラ資本逃避防止法ハ 出來ル、ソレデ出來タラ宜イカ、一方資 本逃避防止法ハ第七條ニ依ツテ留保シ タ法律ヲ御作リニナリ、一方デ手形法 デハ留保セヌ原文翻譯デ以テ此處ニ御 出シニナッテ居ルノデアリマスカラ、國 ノ法律ガ同時ニ二ツ出來ル譯デス ○長島政府委員 併シソレデハ資本逃 避防止法ガ之ニ勝ツ結果ハ、此第七條 ノ留保ニ依ツテ出タト云フコトニナリ マセヌデセウカ——私ハナルト思フノ デス、七條デ留保シテ居リマスカラ、ソ ソデ資本逃避防止法ガ出ル餘地ガ出來 テ來テ、サウシテ資本逃避防止法ガ出 來テ居ルノデスカラ宜イノデハナイ カ……	○清瀬委員 ソレハドウ云フ限度デス カ、ソレガ一寸分ラヌガ……	○清瀬委員 ソレハドウ云フ限度デス カ、ソレガ一寸分ラヌガ……
○長島政府委員 ソレハドウ云フ限度デス カ、何レニシテモ明日モ此委員會ガ開 かれルコトデアリマスカラ、御研究ノ 上、此案ガ通ルカ通ラヌカ知リマセヌ ケレドモ、通ツタ時分ノ煩雜ノナイヤウ ニ、又恐クハ施行法等ニ依ツテモ何カ明 確ニシナケレバ、此儘デハ私ハイケナ イト思フ、一方デハ外貨評價委員會ト 云フモノヲ作ツテ評價シ、片方デハ慣習 デヤル……	○長島政府委員 ドウデセウカ、政府ニ於 テ今回ノ今ノ案ニ修正ノ餘地ナシト思 テ居ラレマセウカ、或ハ日本ニ將來是 ハ修正ノ必要ガ起ルダラウト云フコト ヲ豫想サレテ居ラレマセヌカ	○長島政府委員 ドウデセウカ、政府ニ於 テ今回ノ今ノ案ニ修正ノ餘地ナシト思 テ居ラレマセウカ、或ハ日本ニ將來是 ハ修正ノ必要ガ起ルダラウト云フコト ヲ豫想サレテ居ラレマセヌカ	○長島政府委員 ドウデセウカ、政府ニ於 テ今回ノ今ノ案ニ修正ノ餘地ナシト思 テ居ラレマセウカ、或ハ日本ニ將來是 ハ修正ノ必要ガ起ルダラウト云フコト ヲ豫想サレテ居ラレマセヌカ
○長島政府委員 サウスルト政府ノ發 布ノ順序ニ依ルトカ、何方ノ法律ガ偉 イト云フヤウナコトハナイ筈、デスカラ ウナコトハ、直グハ到來シナイノデヤ ナイカト云フ風ニ思ツテ居リマス、併ナ ガラ日本ノ國情デ、ドウシテモ修正ヲ シナケレバナラヌ、而モ修正ニハ、九條 ノ此四年ノ期間満了ノ時カラデアリマ スルカラ、四年待テナイト云フヤウナ 事情ガアリマスレバ已ムヲ得マセヌカ ラ詰リ二年ノ期間デ廢棄スル、ソレカ スルカラ、四年待テナイト云フヤウナ マス、二年間位ノ間ニハ、ドウシテモ日 本ハ此規定デハ困ルト云フヤウナコト ニ考ヘテ居リマス	○長島政府委員 ソレデハ次ニ移リマス ガ、此事ハドウ考ヘルノデセウカ、此規 則ハ二年間ノ猶豫デモツテ脱退ガ出來 ルト云フノデスガ、國際聯盟ガ關係シ テ居リマスルガ、日本ガ聯盟ヲ脱退シ テモ、此條約ハ繼續スルノデセウネ ○長島政府委員 其通リデアリマス ○清瀬委員 聯盟ガナクナッテモ バナリマセヌガ、將來日本ハ、日本ノ議 モ出來ルト云フ規則ガアリマスルガ、 ○長島政府委員 ソレダカラ無論七條	○長島政府委員 ソレハドウ云フ限度デス カ、何レニシテモ明日モ此委員會ガ開 かれルコトデアリマスカラ、御研究ノ 上、此案ガ通ルカ通ラヌカ知リマセヌ ケレドモ、通ツタ時分ノ煩雜ノナイヤウ ニ、又恐クハ施行法等ニ依ツテモ何カ明 確ニシナケレバ、此儘デハ私ハイケナ イト思フ、一方デハ外貨評價委員會ト 云フモノヲ作ツテ評價シ、片方デハ慣習 デアル、ソコデ取引上ニ於テ、手形ノ形 式ナリ取扱ヲ統一スルコトハ絶對ニ出 來ヌモノデス、世界ガ一ツノ國ニナラ ヌ以上ハ出來マセヌ、裁判官モ違ヒマ シシ、翻譯法モ違ヒマスカラ、先ヅ實務 上略、同ジヤウナ手形ヲ取引致シテ、 サウシテ統一ノ便ヲ圖ラウト云フノデ アツラ、日本ハ是カラドウ進マナケレ バナラヌカ、日本ノ實務ハ何ヲ要求シテ 居ルカラ公平ニ考ヘマスルト云フト、 佛蘭西ノ手形ヲ要求シテ居ル者モナ ク、獨逸ノ手形ヲ要求シテ居ル者モナ ク、日本ノ銀行實務ハ、實務ソレ自身ガ英 吉利ノ風ニ據ツテ居リマスルノト、モウ一 ツハ日本ノ貿易國ガ亞米利加デアリ、英	○長島政府委員 ソレハ資本逃避防止 法ノ限度ニ於テ……
○長島政府委員 一旦條約ヲ結ンダモノヲ、事實ニ於テ	○長島政府委員 一旦條約ヲ結ンダモノヲ、事實ニ於テ	○長島政府委員 一旦條約ヲ結ンダモノヲ、事實ニ於テ	○長島政府委員 一旦條約ヲ結ンダモノヲ、事實ニ於テ

吉利デアリ、印度デアリマスルカラ、日本ノ銀行デハ大抵英吉利式ノ手形カリデアリマス、民事局長ハ昨日モ銀行ニイライシヤッタ云フコトヲ承リマシテ、淘ニ賴モシク思ツテ居リマスガ、此邊ニアル銀行デモ、住友銀行「ナシナル・シチー」銀行、是ハ外國銀行デアリマスガ、横濱正金銀行、總テ此英文デ、第一法律ハ別トシテ、英文ノ手形ヲ貿易デハ使ツテ居リマス、印度ニ送ルモノ、英吉利ニ送ルモノ、皆英文ノ手形デアリマス、大キサモ文字モ、モウ英吉利手形ソックリデアリマスガ、斯ウ云フコトデアリマスルト云フト、日本ノ手形ノ將來ノ發達ハ、矢張私ハ英吉利式ニ進マナケレバナラヌノデハナイカ、國際貿易ノ不便マデモ忍ンデ「チエッコ、スロヴァキア」或ハ佛蘭西邊リト歩調ヲ揃ヘンナラスト云フノデハナクシテ、日本ノ銀行ナリ貿易商ノ要求ハ、私ハ其英吉利手形式ニ幾分變ヘテ行クコトガ日本ノ國策デアルマイカ、今はガ獨佛系ノ此手形條約ニナツテシマヒマスルト、當座ノ場合ニ幾分デモ英吉利ノ手形ヲ活カサウト云フ風ナ必要ノアラウ、條約カラ變ヘテ行カヌト云フトイケナイ、デ私ハ此處ヘ假ニ持參シマシタガ、是ハ學校デ使ツテ居リマスル手形ノ標本デアリマスルガ、現ニ日本ノ

正金銀行デモ爲替手形、約束手形ハ、英吉利式ニ據ツテ居ルノデス、殊ニ目ニ著キマスルノハ此約束手形ハ英式ニ據テ居リマスルカラシテ、約束手形「プロミッソリー・ノーツ」ト云フコトガ何處ニモ書イテナイ、初カラ「プロミセス・ツー・ペー」云々ト、斯ウ云フヤウニ書イテアリマシテ、約束手形タル文字ヲ現シテ居リマセヌ、是モ本案ニ關係シマスケレドモ、大體法律ガアッテ商賣ガ出來ルノデヤナイノデス、耶蘇ノ聖典ニアルヤウニ、初メ言葉アリト云フノデナクシテ、初メ商賣ガアリ、ソレカラ言葉ガ出來ル、即チ手形ガ出來テ來ルノデアリマス、日本ノ商賣ノ相手方ガ亞米利加デアリ、英吉利デアリ、印度デアルノニ、ボツント遠イ滅多ニ交際モセヌ大陸法系ノ條約ニ入ッテ、入ッタ結果ハドウナルカト云フト、日本ノ商法ノ改正ハ議會ニ出シタダケデ出來ナクナル、佛蘭西、獨逸ノ承諾ヲ得ヌト云フト、日本ノ商法ハ改正ガ出來ヌト云フコトハ、如何ニモ窮屈デアルト考ヘルノデアリマスガ、是等ノ點ニ對スル政府ノ御研究ハドウデアリマセウカ、私ノ言フコトヲ質問ニ直シマスルト、日本ハ將來手形ノ改正ヲ必要トスル時分ニ、獨逸、佛蘭西、伊太利等ノ承諾ヲ得ンナラヌト云フコトハ、洵ニ不便ナコトデアルト御感ジニ相成リマセヌカ、又

○長島政府委員　或ハ仰セノ如クニ、日本ノ手形法ヲ全然英米法ト同ジニスル、或ハ其處マデ行カヌデモ非常ニ近イモノニスルト云フコトハ便利カモ知レマセヌガ、從來ノ日本ノ手形法ガ既ニ獨逸式ニ出來テ居ルノデアリマシテ、手形統一法ハソレヨリハ相當英米法ニ近イ方へ歩ヲ進メテ居ルノデアリマスカラ、急激ニ其處マデ行カヌデモ、近イ方へ這入ッテ居ルト云フコトハ、是ハ現在ノ商法デハ出來ナイコト、思ヒ近付テ居ルノデハナイカ、直チニ之ヲ英米法ノヤウニスルト云フコトハ、是ラズシテ、少クトモ英米法ニ多少近寄テ居ル、而モソレニハ英國カラモ「オブサーバー」ガ出テ居^タテ、サウシテ此協議ニ與^タテ居ルヤウナ條約ニ這入^タテ居ルト云フコトハ、少クトモ世界ノ手形法ヲ統一スルニ一段ト近付イテ參^タテ居ルノデハナイカト云フ風ニ私自身ハ考ヘテ居ルノデアリマス、サスレバ茲ニ二年間位ノ間ノ改正ハ無論ノ事、多ナイト云フコトニナリマスマイカ、斯ウ云フコトヲドウ御考デアリマセウカ、伺^タテ置キタイト思フノデアリマスカ、伺^タテ置キタイト思フノデアリマスカ、

條約ト同ジヤウナ案ヲ作ル方ガ宜イノ
デハナイカ、所謂此手形法規ハ二大潮
流ニ分レテ居ル、サウシテ此度ハ英米
法系ト獨逸法系トガ妥協スレバ又統
一ガ出來ルト云フ前提ニナルノデアリ
マス、日本ハ其處マデ這入ラナイカト
云ツテモ、日本ノ法規ヲ英米ノ法規ノヤ
ハニ直スコトハ出來ナイノデアリマス
カラ、日本ト英米法ト獨逸法ト三ツノ
モノガアルトシテ、英米ニ幾ラカ近付
イタ手形統一法ニ這入ツタ方ガ宜クハ
ナイカ、而モスクシテ出來タ現在ノ手
形統一法ハ現行法ニ比較シテ一向不便
デヤナイ、寧ロ良イ點ガ多々アルト云
フノナラバ、此法案ノ通リニシテモ宜
イデハナイカト私自身ハ考ヘテ居ルノ
デアリマス

居リマスノデ、私ハ今ノ民事訴訟法ノ考ヲ之ニハ適用ガ出來ナイ、即チ繼子

扱ヒノ法律ニナリハシナイカト思ヒマスガ、英米法ト雖モ藉スニ時間ヲ以テ

シ、適當ニ日本ノ法律ノ用語ヲ以テスレバ出來ヌコトハナイト思ヒマス、如

何ニモ此法律ガ急造デアリマスルガ故ニ、民法ノ規則トサッパリ合ハヌノデス、細カイ文句アタリニ深入リスル積リヂヤアリマセヌケレドモ、此法律ノ四條、二十七條等ニ住所トアリマスルガ、是ハ民法ノ住所ト見テ宜イノデアリマスカ

○長島政府委員 此住所ト云フノハ無論營業所等モ含ム積リデアリマス

○清瀬委員 ソレデモウ民法ト違テ

居リマスネ、是ハ營業所以外ニ於ケル

生活ノ本據ト云フ意味チヤナインデアリマスカ、是ハ營業所ハ別ニシテ、其他

ニ見テ宜イデアリマセウカ

○長島政府委員 宜イト思ヒマスガ：

○清瀬委員 是ハ私ハ政府デ誤解サレテ居ルノヂヤアルマイカト思フ、此處ノ住所ト云フノハ寧ロ住所地ノコトデヤアルマイカト思ヒマス、二十七條ノ

第二項ヲ御覽下サイマスト、「アドレ

ス」ト云フ方ガ寧ロ住所ニ近イノデ「ド

ミシール」ヲ政府ガ住所ト御譯シニナッ

タノハ、住所デナク住所地ノヤウニ思ヒマスガ……

○齋藤司法書記官 是ハ起草ノ時二十

分ナル調査ヲ致シタノデゴザイマス

ガ、英語ノ原文ノ方ヲ見マスルト、其點

ガ多少曖昧ニナッテ居リマスケレドモ、ハオカシイト思ヒマス

佛蘭西ノ原文デハ二項ノ「ドミニーシール」ト云フモノヲ別ニ書イタノ

ト前ニ「リュー」ト云フ、地ト云フ言葉

ガ無イノデアリマス、第一項ノ方ニハ

居リマス、其點ハ四條ノ佛蘭西ノ原文

ト對照シテ見ルト分ルコトデ、四條ニ

ハ矢張「ドミニーシール」ノ前ニ「リュー」ト

云フ言葉ガ這入ツテ居リマセヌ、此邊ハ

佛蘭西ノ原文デハ中々意ヲ用ヒテ出來

拂人ノ住所ニ於テ支拂フベキモノナル

時ヲ分解シテ考ヘテ見マスルト、假令

同地拂ノ場合デアッテモ、支拂人ノ住所

以外ヲ支拂場所ト定メタ場合ニハ、支

拂人ハ其他ニ支拂場所ヲ定メルコトガ

出來ナイト云フ違ヒガ出テ參リマスノ

デ、サウ云フ意味デ政府ノ原文デ、特

ニ地ノ字ガ這入ツテ居ラナイノデアリ

マス、ソコヲ酌ミマシテ二十七條ノ二

項ニハ態ト地ノ字ガ入レテアリマセ

ス、相當研究ヲシラアル積リデアリマ

シール」トカアッテ、「リュー」ハアリマリマスカ、「ドミニーシール」ハ所謂「ブレー

ヌ」ト云フ意味デハアリマセヌカ

○齋藤司法書記官 サウデハアリマセ

ス——先程申上ゲタヤウニサウデハナ

イ積リニ解釋シテ居リマス、其地ト云

フノハ住所ノアル廣イ地ニ於テ住所以外ニ支拂ノ場所ヲ定メルコトガ出來ル、

斯ウ云フ意味デアリマス

○清瀬委員 ダカラ其意味ニ取ラウト

スレバ「アット・ゼ・ドミニーシール」ト云フ

ノハ住所地ト譯サナケレバナラヌ

○齋藤司法書記官 ソコハ多少見解ノ

相違ニナラウカト思ヒマス

○清瀬委員 佛蘭西語ノ本ヲ見テモ

「ロカリティ」「ブレース」「ドミニーシール」

活ノ本據即チ場所デアルナラバ、其中

○清瀬委員 サウデス、住所ガ既ニ生

テ居リマス、實質カラ申シマシテモ支

拂人ノ住所ニ於テ支拂フベキモノナル

モ決メルノカ、机デモ決メルノカ分ラ

モ決メルノカ、机デモ決メルノカ分ラ

ナイ……

○齋藤司法書記官 其以外ノ場所ガ決

「アドレス」ト云フ四ツノ使ヒ分ニナッテ居リマス、私ハ自分ノ私案ヲ書イテテ居リマス、私ハ混雜シテ御翻譯ニナッテ居ル來テ居リマスケレドモ、私ハドウモ是ハ政府ガ混雜シテ仕様ガナイ、コンナ事ヤウニ思ハレテ仕様ガナイ、コソナ事ガ私ハ手形法ノ運用上非常ナ過誤ヲ來シハシナイカト考ヘル、此第四條ノ「ブレース」ノ方ニハ「ロカリティ」ト云フノガアリマス、佛蘭西語デハ「ロカリティ」トナッテ居リマス

○齋藤司法書記官 是ハ多少廣イ意味デアリマス、場所ヨリモ廣イノデアリマス

○清瀬委員 サウスルト其廣イ中ノ

スガ、二項ノ佛蘭西語ニ於テモ「オ・ドミ

ゼ・ドミニーシール」ハ支拂地ト譯スノデア

「ドミニーシール」ハ一ツノ「ブレース」、斯

分ラナケレバモウ一遍國際會議ヲ開イテ、ドウ云フコトデアルカト云フコトヲ御定メニナラヌト、商法ニモナシ、民法ニモナシ、何ニモナイ、合同債務ト云フコトヲ言ハレテモ、國民ハサッパリ分ル筈ハナイ、此原文ニハ「ソリデールマント佛蘭西語ニハアリマス、是ハ舊民法ノ佛蘭西譯ヲ見テモ連帶債務ヲ「ソリデール」ト言ツテ居リマスガ、唯併シ手形間ノモノヲ「ソリデール」ト言ツタモノカ怪シイト云フノガアナタノ疑デアツタラウト思ヒマス、英語デハ「ジョイントリリー・エンド・セヴェラリー」ト言ツテ居リマス、是モ英國獨特ノ解釋デ此起草者ガ英吉利ノ「コンモン・ロー」ニ「ジョイントリリー・エンド・セヴェラリー」ト書イタノハ起草者ノ間違デ、長島サンガ惡イノデハナイ、國際聯盟ガ惡イノデアル、佛蘭西語ノ「ソリデールマン」ヲ英語ノ「コンモン・ロー」ニチヤント「ジョイントリリー・エンド・セヴェラリー」ト書クノガ間違デアル、原文ガ既ニ國際ト言フト大變エライ所見タヤウデアルケレドモ、明治四十二三年ニ拵ヘタモノヲ其儘ニヤッテ行ツテ佛蘭西人カ何カ英語ヲ少シ稽古シテコソナコトヲヤッテ居ルノデ、佛蘭西語ノ英吉利人デハナカラウト思フノデス、「ソリデールマン」ト云フノヲ「ジョイ

ントリー・エンド・セヴェラリー」ト譯
スルノガ間違デアル、併シ分ラヌカラ
此位ニシテ置クト云フノデ立法サレテ
ハ困ル、分ラヌナラバ分ルマデ徹底サ
レテ、一ツノ言葉デ言ヒ得ナカツタラ、
何條ニ於テ合同ト言フノハ斯ウ々々言
フ意味ダト云フコトデモ御書キニナラ
スト民法ニモナシ、商法ニモナシ、法律
ノ教科書モ、一切民法ノ本モ讀ンデ見
タガ、合同債務ナドト云フモノハチット
モナイ、不可分債務トカ何トカ云フモ
ノハアリマスケレドモ、合同債務ハナ
イ、舊民法ニ於テモ合同債務ト云フモ
ノハ認メテ居リマセヌ、デスカラシテ
スウ云フコトハ立法ヲ急ガズ、法律ノ
面ヲ合スノデナクシテ、本法ニ於テ合
同ト云フハ、假名デ「ソリデールマン」
ト書イテ、「ソリデールマン」ト云フモ
ノハドウダト云フコトヲ御書キニナラ
ヌト、イキナリ「合同シテ其責ニ任ズ」
ト言ツテモ、ドンナコトカ分ラヌ立法デ
ハアルマイカ、斯ウ思ヒマスガ、御感想
ハ如何デスカ

當ナ言葉ガナイノデ斯ウシタノデアッテ「ソリデールマン」ト云フ字ヲ如何ニ譯スルカ、連帶ト云フ字デ其儘譯スルコトガ出來ナイカラ「合同シテ」ト云フ字デ譯シタノデアリマス
○清瀬委員 第二項ハ違ヒマセウ、請求ト言ツテ居リマスケレドモ、原文ニハ「訴訟」ナンデス、「プロシーデイング」ナンデス、第二項ハ訴訟ヲスルノニ、初ニ訴訟シテ宜イカ後ニ訴訟シテ宜イカト云フ規則デアリマシテ、債務ノ態様ヲ何モ書イタモノデハナイ、「ゼ、ホールダー、ハズ、ゼ、ライト、オブ、プロシードィング、アヂンスト、オール、ジース、バーンス、インディヴィデアリー、オア、コレクティー・ヴィリー、ウイズアウト、ビーアング、リクワイヤード、ツー、オブザーヴ、ゼ、オーダー、イン、ホイッチ、ゼ、ハヴ、ビカム、バウンド」訴訟スルノニドレヲ先キニシテ宜イカ、ドレヲ後ニシテ宜イカト云フダケデアッテ、債務ノ態様ハ書イテ居ナイ、是ハ文字ノ使ヒ方デアリマセウケレドモ、斯ウ云フヤウナモノヲ皆請求トヤッテ居ルケレドモ、訴ヘルト云フ字ガ工合ガ好イ、訴訟ト云フ場合モ斯ウヤッテ言ルガ、是ハ違フト思フ、若モ同ジコトデアレバ、原文ガ一項ト二項ト同ジモノヲ書ク筈ハナイ、一項ハ實體法デ、二項ハ手續法ト見テ居ルガ、違ヒマセウカ

○齋藤司法書記官 私カラ補足的ニ説
明致シマスガ、ソレハ英語ノ方ハ「プロ
シードィング」トナツテ居リマスガ、起草
ノ時ニ研究ノ結果、佛蘭西語ノ方ノ「ア
ピール」訴ヘル意味デ使ッテ居リマシテ、
第一項デ言ツテ居ル債務ノ態様ヲ二項
デ説明シテ居ルニ過ギナイ規定デゴザ
イマシテ、サウ云フ見解ノ下ニ譯ガ出
來テ居リマス

○藏園委員長 ソレデハ速記ヲ一寸ヤ
メテ御相談致シタイト思ヒマス

〔速記中止〕

○藏園委員長 今日ハ此程度ニ止メマ
ス、明日ハ御承知ノ通リニ最終日デア
リマスカラシテ、質問竝ニ態度決定、討
論ト云フヤウナ順序ニナラナクチヤナ
リマセヌカラ、頗ル多忙ヲ極メル次第
デアリマス、仍テドウカ明日ハ午前正
十時ニ御參集ヲ願ツテ、大車輪デ御勉強
ヲ願フコトニ致シタイト思ヒマス、今
日ハ是デ散會ヲ致シマス、後デ委員諸
君ト政府委員トノ間ニ懇談會ヲ催シマ
ス

昭和七年六月十三日印刷

昭和七年六月十四日發行

衆議院事務局

印刷者

民友社印刷所